

富山県
神社庁報

かわら版

平成二十五年十月十六日発行
発行所 富山県神社庁
編集 教化委員会広報部会

伊勢の神宮 「お白石持行事」

第六十二回式年遷宮が行われた伊勢の神宮。
新しい御正殿の敷地に敷き詰める白石を奉獻する
「お白石持行事」は七月二十六日から九月一日の間
行われました。

当県からは、
・神社庁及び八支部の奉獻団 一一三七名
・県内十二の神社からの奉獻団 七三九名
合計一八七六名の参加がありました。



早朝の一番車を曳くのは約二千人
長い長い綱を曳きました



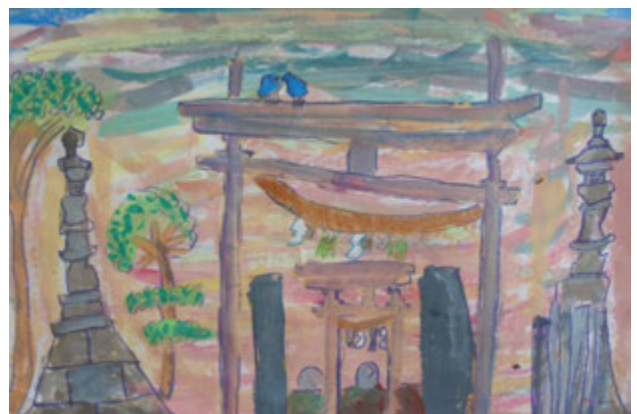
まず二見興玉神社に参拝してお清めを受けました



富山県神社総代会長賞
TLC Kids 吉井希晏さん



富山県神社庁長賞
富山市西部中2年 田嶋 由さん



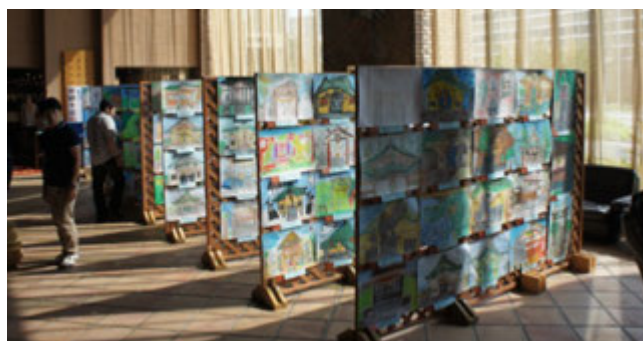
神社本庁統理賞
高岡市下関小2年 四津谷瑞穂さん

第三十六回 お宮さんを描く写生大会

今年は県内二十六神社から四百点の作品応募がありました。
作品の審査は八月四日、表彰式は十八日に行われました。



富山新聞社賞
滑川市寺家小6年 新堂きっかさん



浦安の舞講習会

県下各地の神社で広く奉納されている「浦安の舞」の更なる
普及と上達の為、今夏は初級者向け講習会が八月六く七日の
両日、日枝神社に於て行われました。



雅音楽祭

神宮式年遷宮を広く世に伝えるために開催された「雅(みやび)音楽祭」。

五回目の今年は、六月二十三日に富山市グランドプラザに於て開催されました。午前十時から午後六時三十分まで六部構成で、管弦、神楽、舞楽、浪速神楽などが奏でられ、大勢の来場者で賑わいました。



インタビュー 五年間の歩みを振り返って

神社庁教化委員会神宮奉賛部会長の平尾 賢さんにお聞きしました

「この五年間の歩みを、ご紹介ください？」

神道青年会から、グランドプラザで雅楽を中心とした神宮の広報活動を行いたいとの提案があり、神宮奉賛部会が具体化し実現しました。当時は出来るだけお金をかけずということを中心に掛けて、多数の人に「神宮」「式年遷宮」という言葉、存在を知せることを目的に、雅楽など音楽、装束体験、火きり体験、など通行人の足が止まればよいと考えました。

「深く印象に残っている場面は何ですか？」

神職はもちろん外部のボランティア皆が楽しみながらできたこと。特に雅楽のステージには常に沢山の人がだかりができたこと。今年神棚の無料頒布を実施したところ、大変な反響で行列ができたこと。昨年舞楽「蘭陵王」に挑戦し成し遂げたこと。伊勢名物「赤福」が年々好評を博し、昨年からは裏千家の方々がお茶席を設けてくださったことなどです。

「五年間の苦労話、エピソードなどは？」

様々な神事芸能に出演してほしかったが、現実問題、謝礼なしではほとんどがノー。そんな中、出演して頂いた皆様には大変ありがたく頭が下がる思いです。ナガシマスパーランド湯あみの島などを手掛けたアールタチバナが昨年今年と庭やオブジェを作ってくれて好評でした。(原価のわからないもので制作するのに大変な苦労をされていました)

「やり残したという思いはありますか？」

私も含め担当者みんな全力投球しました。

「音楽祭の今後、来年への抱負・課題は？」

違う目線で見れば他に良いアイデアが生まれるかもしれません。若手中心で行ってきましたが、各支部ごとに担当するなど県内神職全体の行事とすればもっと盛り上がると思います。今後の課題は、より多くの方に見て、聞いて、知って頂くことです。その為には必然的に日曜の開催となります。しかし日曜は神主の動員がなかなか難しいことです。

以上です。ありがとうございます。

雅楽研修会

今年の雅楽講習会は、五月二十一日に神社庁に於て、宮内庁楽部元首席楽長の上明彦先生、副島昌俊先生、柴田直宏先生をお迎えして開催されました。雅音楽祭を翌月に控え、より充実した演奏内容となるよう研修しました。また明治神宮代々木雅楽会との交流会も行われました。



朝日舞 研修会

朝日舞の更なる上達を期して七月二十九日に射水神社に於て武田邦浩宮司を講師にお迎えして開催され、神青会員を中心に十名が受講しました。



第二十九回 庭燎の集い

八月八日、射水市鎮座の放生津八幡宮で開催されました。あんどん作り、火きり体験、アルミ缶炊飯、雅楽鑑賞など約三十名の子供たちが楽しく過ごしました。

